

総義歯補綴学実習

責任者名：池田 貴之(歯科補綴学 I 専任講師)

学期：後期

対象学年：4年

授業形式等：実習

◆担当教員

飯沼 利光(歯科補綴学 I 教授)
高津 匡樹(歯科補綴学 I 准教授)
伊藤 智加(歯科補綴学 I 専任講師)
池田 貴之(歯科補綴学 I 専任講師)
李 淳(歯科補綴学 I 専任講師)
浦田 健太郎(歯科補綴学 I 助教)
西尾 健介(歯科補綴学 I 助教)
祇園白 信仁(特任教授)
成田 達也(歯科補綴学 I 兼任講師)
塩田 洋平(歯科補綴学 I 兼任講師)
和泉 憲一(歯科補綴学 I 兼任講師)
細田 透(歯科補綴学 I 兼任講師)
清水 政利(歯科補綴学 I 兼任講師)
谷津 悟(歯科補綴学 I 兼任講師)
坪田 健嗣(歯科補綴学 I 兼任講師)
川村 裕(歯科補綴学 I 兼任講師)
萩原 正明(歯科補綴学 I 兼任講師)
織井 康互(歯科補綴学 I 兼任講師)
黒崎 俊一(歯科補綴学 I 兼任講師)
濱中 一将(歯科補綴学 I 兼任講師)
齊藤 好文(歯科補綴学 I 兼任講師)
山本 隆明(歯科補綴学 I 兼任講師)
瀧澤 朋章(歯科補綴学 I 兼任講師)
相澤 正之(歯科補綴学 I 兼任講師)
西川 美月(歯科補綴学 I 兼任講師)
須藤 壽大(歯科補綴学 I 兼任講師)
安川 愛(歯科補綴学 I 兼任講師)
原田 聡之(歯科補綴学 I 兼任講師)
岩崎 洋子(歯科補綴学 I 兼任講師)
吉川 英一(歯科補綴学 I 兼任講師)
松本 充正(歯科補綴学 I 兼任講師)
池田 善之(歯科補綴学 I 兼任講師)
縄田 博之(歯科補綴学 I 兼任講師)
戸邊 健一郎(歯科補綴学 I 兼任講師)
福本 宗子(歯科補綴学 I 兼任講師)

近藤 雄学(歯科補綴学Ⅰ 兼任講師)
千葉 健太郎(歯科補綴学Ⅰ 兼任講師)
佐々木 優(歯科補綴学Ⅰ 兼任講師)
戸口 武揚(歯科補綴学Ⅰ 兼任講師)
渡邊 真奈美(歯科補綴学Ⅰ 兼任講師)

◆一般目標 (GIO)

無歯顎患者補綴診療を遂行するために、基本術式を身に付ける。

◆到達目標 (SBOs)

総義歯製作における作業過程を理解できる。

総義歯製作におけるチェアサイドおよびラボサイドでの役割を説明できる。

総義歯製作におけるチェアサイドおよびラボサイドでの作業を実施できる。

◆評価方法

実習製作物評価を基本資料(70%)とし、平常試験(30%)を加味して総合評価する。平常試験は試験終了後に各問題の正答率を説明し、問題の解説を行う。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
池田 貴之	月曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第Ⅰ講座医局	ikedatakayuki@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

チェアサイドを想定した概形印象採得、精密印象採得、フェイスボウ採得からラボサイドの人工歯排列、歯肉形成まで総義歯製作の一連の操作を行う。口頭試問は口頭試問を行う教員が個別に行う。平常試験はSATTを使用して行う。

【実務経験】

飯沼利光をはじめとする担当教員は全て、日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅰ講座に在籍しており、補綴治療と補綴学に関わる様々な研究および臨床を行っている。それらの経験を基に歯科医師の立場から口腔内で機能させる総義歯の製作を行う。一連の操作を経験することで、理論に対する理解をより一層深めることが出来ると考えている。

◆教材 (教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
実習書	無歯顎患者への総義歯製作	日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅰ講座	新燈印刷	2019年版

◆DP・CP

[DP-4] コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得でき

る。
 [CP4] 歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

必ず事前に教科書を読み実習内容を理解して臨むこと。

◆準備学習時間

準備学習に記載された事項に必要なだけの時間を充てて予習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

総義歯補綴学Ⅰ、総義歯補綴学Ⅱ

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		9.7	6	1. 作業用模型へ歯槽頂線の記入およびスプリットキャストの付与 2. 咬合床の製作 上記実習についての説明	1. 作業用模型へ歯槽頂線の記入およびスプリットキャストの付与 2. 咬合床の製作	池田 貴之 浦田 健太郎	E-3-4)-(2) 可撤性義歯(部分床義歯、全部床義歯)
2 ～ 3	A 班 ～ B 班	9.8 9.8	1 ～ 2 3 ～ 4	1. 作業用模型へ歯槽頂線の記入およびスプリットキャストの付与 2. 咬合床の製作(教1) pp.9-14	・歯槽頂線が咬合堤の製作, 顎間関係の設定, 人工歯排列などで果たす役割を理解し作業用模型への描記を修得できる。 ・後堤法の目的, 意義および設定法を理解することができる。 ・リリースの目的, 意義および設定法を理解することができる。 ・咬合床が基礎床と咬合堤から成ることを学び, その製作法を修得できる。	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可撤性義歯(部分床義歯、全部床義歯)
4		9.14	6	2. 咬合床の製作(教1) pp.15-18 上記実習についての説明	・歯槽頂線が咬合堤の製作, 顎間関係の設定, 人工歯排列などで果たす役割を理解し作業用模型への描記を修得できる。 ・後堤法の目的, 意義および設定法を理解することができる。 ・リリースの目的, 意義および設定法を理解することができる。	池田 貴之 浦田 健太郎	E-3-4)-(2) 可撤性義歯(部分床義歯、全部床義歯)

					<ul style="list-style-type: none"> ・咬合床が基礎床と咬合堤から成ることを学び、その製作法を修得できる。 		
5 ～ 6	A班 B班	9.15 9.15	1 ～ 2 3 ～ 4	2. 咬合床の製作 (教1) pp.15-18	<ul style="list-style-type: none"> ・歯槽頂線が咬合堤の製作、顎間関係の設定、人工歯排列などで果たす役割を理解し作業用模型への描記を修得できる。 ・後堤法の目的、意義および設定法を理解することができる。 ・リリースの目的、意義および設定法を理解することができる。 ・咬合床が基礎床と咬合堤から成ることを学び、その製作法を修得できる。 	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯(部 分床義歯、全 部床義歯)
7		9.28	6	2. 咬合床の製作 (教1) pp.15-18 上記実習について の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・歯槽頂線が咬合堤の製作、顎間関係の設定、人工歯排列などで果たす役割を理解し作業用模型への描記を修得できる。 ・後堤法の目的、意義および設定法を理解することができる。 ・リリースの目的、意義および設定法を理解することができる。 ・咬合床が基礎床と咬合堤から成ることを学び、その製作法を修得できる。 	池田 貴之 浦田 健太郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯(部 分床義歯、全 部床義歯)
8 ～ 9	A班 B班	9.29 9.29	1 ～ 2 3 ～ 4	2. 咬合床の製作 (教1) pp.15-18	<ul style="list-style-type: none"> ・歯槽頂線が咬合堤の製作、顎間関係の設定、人工歯排列などで果たす役割を理解し作業用模型への描記を修得できる。 ・後堤法の目的、意義および設定法を理解することができる。 ・リリースの目的、意義および設定法を理解することができる。 ・咬合床が基礎床と咬合堤から成ることを学び、その製作法を修得できる。 	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯(部 分床義歯、全 部床義歯)
10		10.5	6	2. 咬合床の製作 (教1) pp.15-18 3. 咬合器装着	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎作業用模型付着に際しては、模型基底面にスプリットキャストテクニックを応用した模型再付着を可 	池田 貴之 浦田 健太郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯(部 分床義歯、全

				(教1) pp.19-24	<p>能とするV字溝(約40度の鋭角)の付与を修得できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下顎作業用模型の咬合器付着は、無歯顎患者にて仮想咬合平面設定と垂直的および水平的顎間関係設定を行い、チェックバイトを採得し行うが、本実習では上顎に対し下顎が約2mm後退した標準的な位置での咬合器付着を修得できる。 ・下顎作業用模型基底面に展開角の小さいV字溝の付与を修得できる。 		部床義歯)
11 ～ 12	A班 B班	10.6 10.6	1 ～ 2 3 ～ 4	<p>2. 咬合床の製作 (教1) pp.15-18</p> <p>3. 咬合器装着 (教1) pp.19-24</p>	<p>・上顎作業用模型付着に際しては、模型基底面にスプリットキャストテクニックを応用した模型再付着を可能とするV字溝(約40度の鋭角)の付与を修得できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下顎作業用模型の咬合器付着は、無歯顎患者にて仮想咬合平面設定と垂直的および水平的顎間関係設定を行い、チェックバイトを採得し行うが、本実習では上顎に対し下顎が約2mm後退した標準的な位置での咬合器付着を修得できる。 ・下顎作業用模型基底面に展開角の小さいV字溝の付与を修得できる。 	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯(部 分床義歯、全 部床義歯)
13		10.12	6	<p>2. 咬合床の製作 (教1) pp.15-18</p> <p>3. 咬合器装着 (教1) pp.19-24</p> <p>上記実習について の説明</p>	<p>・上顎作業用模型付着に際しては、模型基底面にスプリットキャストテクニックを応用した模型再付着を可能とするV字溝(約40度の鋭角)の付与を修得できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下顎作業用模型の咬合器付着は、無歯顎患者にて仮想咬合平面設定と垂直的および水平的顎間関係設定を行い、チェックバイトを採得し行うが、本実習では上顎に対し下顎が約2mm後退した標準的な位置での咬合器付着を修得できる。 ・下顎作業用模型基底面に展開角の小さいV字溝の付与を修得できる。 	池田 貴之 浦田 健太 郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯(部 分床義歯、全 部床義歯)

14 ～ 15	A班 ～ B班	10.13 ～ 10.13	1 ～ 2 3 ～ 4	2. 咬合床の製作 (教1) pp.15-18 3. 咬合器装着 (教1) pp.19-24	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎作業用模型付着に際しては、模型基底面にスプリットキャストテクニックを応用した模型再付着を可能とするV字溝(約40度の鋭角)の付与を修得できる。 ・下顎作業用模型の咬合器付着は、無歯顎患者にて仮想咬合平面設定と垂直的および水平的顎間関係設定を行い、チェックバイトを採得し行うが、本実習では上顎に対し下顎が約2mm後退した標準的な位置での咬合器付着を修得できる。 ・下顎作業用模型基底面に展開角の小さいV字溝の付与を修得できる。 	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯(部 分床義歯、全 部床義歯)
16		10.19	6	4. 概形印象から 精密印象までの流 れを ビデオ聴講 上記実習について の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・無歯顎患者における機能再建のための総義歯補綴診療について、概形印象採得法の理論と臨床術式の修得ができる。 ・患者に対する術者の位置、印象材の量、印象用トレーの口腔内挿入方法、挿入時期あるいは印象材硬化後の撤去時期等について修得できる。 ・アルジネート印象材の性質を理解し概形印象の取り扱いを修得できる。 ・研究用模型の製作法を修得し、普通石膏の印象注入での注意を学ぶことができる。 ・研究用模型を用いた診査診断、製作する義歯の設計、治療計画の立案を学ぶことができる。 <p>上下顎研究用模型から、総義歯の製作に必要な無歯顎患者の口腔内の解剖学的ランドマークとそのマークの持つ意義を理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人トレーは、総義歯の機能および形態回復に最も適した義歯床下粘膜状態および床辺縁状態を、機能に合致し、精密に最終印象採得するこ 	池田 貴之 浦田 健太 郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯(部 分床義歯、全 部床義歯)

					<p>とに用いるので、その意義を学び、常温重合レジンでの製作術式を修得できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人トレーで被覆すべき範囲およびの精密印象を適格に行うための具備条件を、製作を通じて学ぶことができる。 ・無歯顎患者の精密印象は、機能再建のための総義歯の製作と予後とに影響を与える重要な操作であることを、臨床術式を通じて学ぶことができる。 ・筋圧形成では印象辺縁の持つ意味を理解し、義歯床辺縁封鎖の確立と義歯床辺縁と周囲組織との調和を保つ理論と臨床術式を修得できる。 ・義歯床下粘膜面の印象では機能時の義歯による粘膜への加圧状態を理解し、選択的加圧印象法を修得できる。 ・印象辺縁の重要性を理解し辺縁を保護するボクシング術式を修得できる。 		
17 ～ 18	A 班 B 班	10.20 10.20	1 ～ 2 3 ～ 4	<p>4. 概形印象から精密印象までの流れを ビデオ聴講 1～3項目の採点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・無歯顎患者における機能再建のための総義歯補綴診療について、概形印象採得法の理論と臨床術式の修得ができる。 ・患者に対する術者の位置、印象材の量、印象用トレーの口腔内挿入方法、挿入時期あるいは印象材硬化後の撤去時期等について修得できる。 ・アルジネート印象材の性質を理解し概形印象の取り扱いを修得できる。 ・研究用模型の製作法を修得し、普通石膏の印象注入での注意を学ぶことができる。 ・研究用模型を用いた診査診断、製作する義歯の設計、治療計画の立案を学ぶことができる。 <p>上下顎研究用模型から、総義歯の製作に必要な無歯顎患者の口腔内の解</p>	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）

				<p>剖学的ランドマークとそのマークの持つ意義を理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人トレーは、総義歯の機能および形態回復に最も適した義歯床下粘膜状態および床辺縁状態を、機能に合致し、精密に最終印象採得することに用いるので、その意義を学び、常温重合レジンでの製作術式を修得できる。 ・個人トレーで被覆すべき範囲およびの精密印象を適格に行うための具備条件を、製作を通じて学ぶことができる。 ・無歯顎患者の精密印象は、機能再建のための総義歯の製作と予後とに影響を与える重要な操作であることを、臨床術式を通じて学ぶことができる。 ・筋圧形成では印象辺縁の持つ意味を理解し、義歯床辺縁封鎖の確立と義歯床辺縁と周囲組織との調和を保つ理論と臨床術式を修得できる。 ・義歯床下粘膜面の印象では機能時の義歯による粘膜への加圧状態を理解し、選択的加圧印象法を修得できる。 ・印象辺縁の重要性を理解し辺縁を保護するボクシング術式を修得できる。 			
19		10.26	6	<p>4の項目について 平常試験</p> <p>5. 人工歯排列 上顎人工前歯 (教1) pp.25-33 上記実習についての説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上下顎作業用模型付着後咬合堤の修正を行い、人工歯選択および排列の基準となる標示線（歯槽頂線、正中線、口唇線、口角線等）を明示を修得できる。 ・人工歯の目的、意義、種類等を理解し、人工歯排列の術式を修得できる。 <p>人工前歯の選択は顔貌との調和、SPA要素、患者の意見等を参考に型、色調、大きさを決定することが理解できる。本実習では標準的な人工歯を用い、規格模型を参考に排列</p>	池田 貴之 浦田 健太郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）

					<p>術式を修得できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工前歯では、審美性や発音機能の回復を主目的として排列することを学び、三次元的な歯軸、位置に注意して排列することが修得できる。 ・審美性の回復等を考慮して決定された咬合堤の唇側面の位置と人工前歯唇側面の位置との一致を修得できる。 ・実習では解剖的人工白歯を用いるが、人工白歯の咬合面形態は顎堤の吸収度によって、色調は人工前歯に準じて、大きさは顎間距離と顎堤長を基準に選択されることを理解することができる。 		
20 ～ 21	A 班 B 班	10.27 10.27	1 ～ 2 3 ～ 4	<p>4 の項目について 平常試験</p> <p>5. 人工歯排列 上顎人工前歯 (教1) pp.25-33</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上下顎作業用模型付着後咬合堤の修正を行い、人工歯選択および排列の基準となる標示線（歯槽頂線、正中線、口唇線、口角線等）を明示を修得できる。 ・人工歯の目的、意義、種類等を理解し、人工歯排列の術式を修得できる。 <p>人工前歯の選択は顔貌との調和、SPA 要素、患者の意見等を参考に型、色調、大きさを決定することが理解できる。本実習では標準的な人工歯を用い、規格模型を参考に排列術式を修得できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工前歯では、審美性や発音機能の回復を主目的として排列することを学び、三次元的な歯軸、位置に注意して排列することが修得できる。 ・審美性の回復等を考慮して決定された咬合堤の唇側面の位置と人工前歯唇側面の位置との一致を修得できる。 ・実習では解剖的人工白歯を用いるが、人工白歯の咬合面形態は顎堤の吸収度によって、色調は人工前歯に 	<p>高津 匡樹 伊藤 智加 池田 貴之 李 淳 浦田 健太郎 西尾 健介 祇園白 信仁 兼任講師</p>	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）

					準じて、大きさは顎間距離と顎堤長を基準に選択されることを理解することができる。		
22		11.2	6	5. 人工歯排列 上顎人工前歯 下顎人工前歯 (教1) pp.25-33 上記実習についての説明	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎人工前歯の位置，歯軸傾斜と上下顎人工前歯間の水平，垂直被蓋等を考慮した排列術式を修得できる。 ・人工前歯の水平および垂直被蓋は，切歯路と関係することを理解できる。 ・人工前歯の位置と被蓋関係が下顎運動，審美性および発音機能と深く関係していることを理解し，これらの回復を目的とした排列術式を修得できる。 	池田 貴之 浦田 健太郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）
23 ～ 24	A 班 B 班	11.10 11.10	1 ～ 2 3 ～ 4	5. 人工歯排列 上顎人工前歯 下顎人工前歯 (教1) pp.25-33	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎人工前歯の位置，歯軸傾斜と上下顎人工前歯間の水平，垂直被蓋等を考慮した排列術式を修得できる。 ・人工前歯の水平および垂直被蓋は，切歯路と関係することを理解できる。 ・人工前歯の位置と被蓋関係が下顎運動，審美性および発音機能と深く関係していることを理解し，これらの回復を目的とした排列術式を修得できる。 	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）
25		11.9	6	5. 人工歯排列 上顎人工前歯 下顎人工前歯 (教1) pp.25-33 上記実習についての説明	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎人工前歯の位置，歯軸傾斜と上下顎人工前歯間の水平，垂直被蓋等を考慮した排列術式を修得できる。 ・人工前歯の水平および垂直被蓋は，切歯路と関係することを理解できる。 	池田 貴之 浦田 健太郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）

					<ul style="list-style-type: none"> 人工前歯の位置と被蓋関係が下顎運動、審美性および発音機能と深く関係していることを理解し、これらの回復を目的とした排列術式を修得できる。 		
26 ～ 27	A班 ～ B班	11.17 ～ 11.17	1 ～ 2 3 ～ 4	5. 人工歯排列 上顎人工前歯 下顎人工前歯 (教1) pp.25-33	<ul style="list-style-type: none"> 下顎人工前歯の位置、歯軸傾斜と上下顎人工前歯間の水平、垂直被蓋等を考慮した排列術式を修得できる。 人工前歯の水平および垂直被蓋は、切歯路と関係することを理解できる。 人工前歯の位置と被蓋関係が下顎運動、審美性および発音機能と深く関係していることを理解し、これらの回復を目的とした排列術式を修得できる。 	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）
28		11.16	6	11. 人工歯排列 上顎人工前歯 下顎人工前歯 (教1) pp.25-33	<ul style="list-style-type: none"> 人工歯の目的、意義、種類等を理解し、人工歯排列の術式を修得できる。 人工前歯の選択は顔貌との調和、SPA要素、患者の意見等を参考に型、色調、大きさを決定することが理解できる。本実習では標準的な人工歯を用い、規格模型を参考に排列術式を修得できる。 人工前歯では、審美性や発音機能の回復を主目的として排列することを学び、三次元的な歯軸、位置に注意して排列することが修得できる。 審美性の回復等を考慮して決定された咬合堤の唇側面の位置と人工前歯唇側面の位置との一致を修得できる。 実習では解剖的人工白歯を用いるが、人工白歯の咬合面形態は顎堤の吸収度によって、色調は人工前歯に 	池田 貴之 浦田 健太 郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）

					準じて、大きさは顎間距離と顎堤長を基準に選択されることを理解することができる。		
29 ～ 30	A 班 B 班	11.24 11.24	1 ～ 2 3 ～ 4	11. 人工歯排列 上顎人工前歯 下顎人工前歯 (教1) pp.25-33	<ul style="list-style-type: none"> 人工歯の目的、意義、種類等を理解し、人工歯排列の術式を修得できる。 人工前歯の選択は顔貌との調和、SPA 要素、患者の意見等を参考に型、色調、大きさを決定することが理解できる。本実習では標準的な人工歯を用い、規格模型を参考に排列術式を修得できる。 人工前歯では、審美性や発音機能の回復を主目的として排列することを学び、三次元的な歯軸、位置に注意して排列することが修得できる。 審美性の回復等を考慮して決定された咬合堤の唇側面の位置と人工前歯唇側面の位置との一致を修得できる。 実習では解剖的人工白歯を用いるが、人工白歯の咬合面形態は顎堤の吸収度によって、色調は人工前歯に準じて、大きさは顎間距離と顎堤長を基準に選択されることを理解することができる。 	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）
31		11.30	6	5. 人工歯排列 上顎人工白歯 下顎人工白歯 (教1) pp.25-33 上記実習について の説明	<ul style="list-style-type: none"> 上顎人工白歯では歯槽頂間線法則、咬合平面および調節彎曲など人工白歯排列の原則に基づいて、それらの歯軸、位置などに注意し、排列術式を修得できる。 人工白歯の咬合関係は、義歯の安定や支持の面で1歯対2歯の咬頭嵌合で、フルバランスドオクルージョン（両側性平衡咬合）の咬合様式が良好なことを学び、これに基づいた下顎人工白歯の排列術式を修得できる。 上顎人工白歯排列は咬頭内斜面と 	池田 貴之 浦田 健太 郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）

					<p>歯槽頂線との関係の在り方を考慮し、咬合する下顎人工臼歯は舌房を侵害することなく転覆力を生じない位置に排列することを修得できる。</p>		
32 ～ 33	A 班 B 班	12.1 12.1	1 ～ 2 3 ～ 4	<p>5. 人工歯排列 上顎人工臼歯 下顎人工臼歯 (教1) pp.25-33</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎人工臼歯では歯槽頂間線法則、咬合平面および調節彎曲など人工臼歯排列の原則に基づいて、それらの歯軸、位置などに注意し、排列術式を修得できる。 ・人工臼歯の咬合関係は、義歯の安定や支持の面で1歯対2歯の咬頭嵌合で、フルバランスドオクルージョン（両側性平衡咬合）の咬合様式が良好なことを学び、これに基づいた下顎人工臼歯の排列術式を修得できる。 ・上顎人工臼歯排列は咬頭内斜面と歯槽頂線との関係の在り方を考慮し、咬合する下顎人工臼歯は舌房を侵害することなく転覆力を生じない位置に排列することを修得できる。 	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）
34		12.7	6	<p>5. 人工歯排列 上顎人工臼歯 下顎人工臼歯 (教1) pp.25-33 上記実習について の説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎人工臼歯では歯槽頂間線法則、咬合平面および調節彎曲など人工臼歯排列の原則に基づいて、それらの歯軸、位置などに注意し、排列術式を修得できる。 ・人工臼歯の咬合関係は、義歯の安定や支持の面で1歯対2歯の咬頭嵌合で、フルバランスドオクルージョン（両側性平衡咬合）の咬合様式が良好なことを学び、これに基づいた下顎人工臼歯の排列術式を修得できる。 ・上顎人工臼歯排列は咬頭内斜面と歯槽頂線との関係の在り方を考慮し、咬合する下顎人工臼歯は舌房を侵害することなく転覆力を生じない位置に排列することを修得できる。 	池田 貴之 浦田 健太 郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）

35 ～ 36	A 班 B 班	12.8 12.8	1 ～ 2 3 ～ 4	5. 人工歯排列 上顎人工白歯 下顎人工白歯 (教1) pp.25-33	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎人工白歯では歯槽頂間線法則，咬合平面および調節彎曲など人工白歯排列の原則に基づいて，それらの歯軸，位置などに注意し，排列術式を修得できる。 ・人工白歯の咬合関係は，義歯の安定や支持の面で1歯対2歯の咬頭嵌合で，フルバランスドオクルージョン（両側性平衡咬合）の咬合様式が良好なことを学び，これに基づいた下顎人工白歯の排列術式を修得できる。 ・上顎人工白歯排列は咬頭内斜面と歯槽頂線との関係の在り方を考慮し，咬合する下顎人工白歯は舌房を侵害することなく転覆力を生じない位置に排列することを修得できる。 	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）
37		12.9	6	5. 人工歯排列 上顎人工白歯 下顎人工白歯 (教1) pp.25-33 上記実習について の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎人工白歯は，両側性平衡咬合則り，咬合器上で上顎人工白歯との咬頭嵌合関係および偏心咬合の状態を頬側と舌側とから確認し排列することを修得できる。 ・調節彎曲が咬合平衡のために確立されていることを確認し，同彎曲が総義歯の維持および安定に関係することを学び，義歯の力学を理解できる。 ・下顎人工白歯の排列は上顎人工白歯への咬頭嵌合の確立と，咬合器上で側方運動させた際の接触滑走の状態を確認しながら行うことを修得できる。 	池田 貴之 浦田 健太 郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）
38 ～ 39	A 班 B 班	12.10 12.10	1 ～ 2 3 ～ 4	5. 人工歯排列 上顎人工白歯 下顎人工白歯 (教1) pp.25-33	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎人工白歯は，両側性平衡咬合則り，咬合器上で上顎人工白歯との咬頭嵌合関係および偏心咬合の状態を頬側と舌側とから確認し排列することを修得できる。 ・調節彎曲が咬合平衡のために確立 	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯（部 分床義歯、全 部床義歯）

					<p>されていることを確認し、同彎曲が総義歯の維持および安定に関係することを学び、義歯の力学を理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下顎人工白歯の排列は上顎人工白歯への咬頭嵌合の確立と、咬合器上で側方運動させた際の接触滑走の状態を確認しながら行うことを修得できる。 		
40		12.14	6	<p>5. 人工歯排列 上顎人工白歯 下顎人工白歯 (教1) pp.25-33 上記実習についての説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎人工白歯は、両側性平衡咬合則り、咬合器上で上顎人工白歯との咬頭嵌合関係および偏心咬合の状態を頬側と舌側とから確認し排列することを修得できる。 ・調節彎曲が咬合平衡のために確立されていることを確認し、同彎曲が総義歯の維持および安定に関係することを学び、義歯の力学を理解できる。 ・下顎人工白歯の排列は上顎人工白歯への咬頭嵌合の確立と、咬合器上で側方運動させた際の接触滑走の状態を確認しながら行うことを修得できる。 	池田 貴之 浦田 健太郎	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯 (部 分床義歯、全 部床義歯)
41 ～ 42	A 班 ～ B 班	12.15 ～ 12.15	1 ～ 2 3 ～ 4	<p>5. 人工歯排列 上顎人工白歯 下顎人工白歯 (教1) pp.25-33</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎人工白歯は、両側性平衡咬合則り、咬合器上で上顎人工白歯との咬頭嵌合関係および偏心咬合の状態を頬側と舌側とから確認し排列することを修得できる。 ・調節彎曲が咬合平衡のために確立されていることを確認し、同彎曲が総義歯の維持および安定に関係することを学び、義歯の力学を理解できる。 ・下顎人工白歯の排列は上顎人工白歯への咬頭嵌合の確立と、咬合器上で側方運動させた際の接触滑走の状 	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可 撤性義歯 (部 分床義歯、全 部床義歯)

					態を確認しながら行うことを修得できる。		
43		12.21	6	<p>6. 歯肉形成 (教1) pp.34-37 【評価を5、6の項目を上顎のみで行う。】 上記実習についての説明</p>	<p>・歯肉形成は、機能再建のために製作する総義歯の審美的回復、維持安定向上、食片の停滞と侵入の防止および発音機能の向上に関連するので、その目的と意義を理解し、形成術式を修得できる。</p> <p>・上顎歯肉形成では、歯頸線、歯間乳頭、歯根豊隆、口蓋部形態の付与について形成術式を修得できる。</p> <p>・上顎口蓋部形態（S状隆起、白歯歯根相当部豊隆など）は発音機能および咀嚼機能と関連することを理解し、発音機能に障害を招かないよう形成する理論と術式を修得できる。</p> <p>・下顎歯肉形成では、歯頸線、歯間乳頭、歯根豊隆、舌房形態などの付与について規格模型を参考に形成術式を修得できる。また、舌運動と関連することを理解し、咀嚼時の舌運動を考慮した形態を付与することを修得できる。</p>	池田 貴之 浦田 健太郎	E-3-4)-(2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）
44 ～ 45	A班 ～ B班	12.22 ～ 12.22	1 ～ 2 3 ～ 4	<p>6. 歯肉形成 (教1) pp.34-37 【評価を5、6の項目を上顎のみで行う。】 平常試験</p>	<p>・歯肉形成は、機能再建のために製作する総義歯の審美的回復、維持安定向上、食片の停滞と侵入の防止および発音機能の向上に関連するので、その目的と意義を理解し、形成術式を修得できる。</p> <p>・上顎歯肉形成では、歯頸線、歯間乳頭、歯根豊隆、口蓋部形態の付与について形成術式を修得できる。</p> <p>・上顎口蓋部形態（S状隆起、白歯歯根相当部豊隆など）は発音機能および咀嚼機能と関連することを理解し、発音機能に障害を招かないよう形成する理論と術式を修得できる。</p>	専任教員 兼任講師	E-3-4)-(2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）

				<p>・下顎歯肉形成では，歯頸線，歯間乳頭，歯根豊隆，舌房形態などの付与について規格模型を参考に形成術式を修得できる。また，舌運動と関連することを理解し，咀嚼時の舌運動を考慮した形態を付与することを修得できる。</p>		
--	--	--	--	---	--	--

担当グループ一覧表

グループ名	教員コード	教員名	
専任教員	1083	飯沼 利光	
	1307	池田 貴之	
	1363	李 淳	
	1552	伊藤 智加	
	1568	高津 匡樹	
	2725	浦田 健太郎	
	2839	西尾 健介	
	5000004	祇園白 信仁	
	兼任講師	1742	成田 達也
		2561	塩田 洋平
2964		須藤 壽大	
2979		安川 愛	
3195		渡邊 真奈美	
3000249		相澤 正之	
3000250		和泉 憲一	
3000251		織井 康互	
3000252		川村 裕	
3000253		黒崎 俊一	
3000254		齊藤 好文	
3000255		清水 政利	
3000256		瀧澤 朋章	
3000257		坪田 健嗣	
3000258		西川 美月	
3000259		萩原 正明	
3000260		濱中 一将	
3000261		原田 聡之	
3000262		細田 透	
3000263		谷津 悟	
3000264	山本 隆明		
3000265	岩崎 洋子		
3000267	吉川 英一		
3000268	松本 充正		
3000269	池田 善之		
3000271	縄田 博之		
3000545	福本 宗子		
3000546	近藤 雄学		
3000548	千葉 健太郎		
3000549	佐々木 優		
3000559	戸邊 健一朗		

	3000602	戸口 武揚
--	---------	-------